

しろいし 市議会だより

2017
秋
第187号

- 2~4P 9月定例会の概要・審議した議案・議長のあいさつ
- 5~7P 決算審査特別委員会
- 8P 予算審査特別委員会
- 9~14P 市政に対する一般質問(10名)
- 15P 議会の構成
- 16P 人事・7月臨時会・編集後記

[表紙写真]

第31回 しろいし蔵王高原マラソン大会

しろいし蔵王高原マラソン大会
スタート





市長の提案理由説明

9月定例会

平成28年度決算を認定 一般会計補正予算など16議案可決

平成29年9月定例会は、9月6日から9月22日までの17日間の日程で開催されました。市長提出議案は、人事1件、平成28年度各会計決算の認定等2件、条例等6件、予算6件の計15件でした。

定例会初日、第60号議案及び第61号議案が提案され、表決の結果、全会一致で同意・可決しました。

2日目、第62号議案及び第63号議案の質疑が行われ、決算審査特別委員会に審査が付託されました。

3日目、第64号議案から第74号議案の質疑が行われ、条例等5議案は表決の結果、全会一致で原案のとおり可決しました。予算6議案は予算審査特別委員会に審査が付託されました。

一般質問は、9月20日と9月21日の2日間で、10名の議員が質問を行いました。定例会最終日の本会議において、各委員長報告を行なった後、表決の結果、いずれも全会一致で、認定、原案のとおり可決しました。

また最終日に、市長提出議案1件が追加提案され、表決の結果、全会一致で可決しました。

審議した議案の主なものは次のとおりです。

条例等

◎白石市スキー場条例の一部を改正する条例

みやぎ蔵王白石スキー場利用者の利便性を向上し更なる集客を図るため、半日券の利用時間を延長することから、条例の一部を改正するものです。

◎物品購入契約の締結について

みやぎ蔵王白石スキー場で使用する圧雪車の購入契約について、条例の規定に基づき議会の議決を求めるものです。

●契約の目的

圧雪車の購入

●契約の金額

7千797万6千円

●契約の相手

日本ケーブル株式会社

東北支店

就任のあいさつ



議長
志村 新一郎

市民の皆さまには、日頃、市議会に対し、格別なるご支援をいただいておりますこと、心より厚く感謝申し上げます。

私は、第426回市議会臨時会において、議長のお職を託させていただくことになりました。身に余る光栄と同時に責任の重大さに身が引き締まる思いであります。

さて、本市の第五次白石市総合計画も7年目となります。市民の代弁者として、今後も引き続き、「人・暮らし・環境が活きる交流拠点都市づくり」による市民総参画のまちづくりの推進に全力を傾注し、提言を行なってまいります。

さらに、平成26年に制定しました「議会基本条例」に基づき議会の責務を果たすべく、市民福祉の向上及び市政の伸展のため、更なる議会の活性化と積極的な政策立案・提言の推進を図ってまいります。

市民の皆さまの一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

◎指定管理者の指定について

みやぎ蔵王白石スキー場・白石市南蔵王休憩所の2施設は、平成29年11月30日で指定管理の期間が終了することから、改めて指定管理者を指定するものです。

●指定管理者となる団体

特定非営利活動法人 不忘アザレア

●指定の期間

平成29年12月1日から平成34年11月30日まで

予 算

◎平成29年度白石市一般会計補正予算(第4号)

これまでの歳入歳出予算をそれぞれ5億3千277万9千円追加し、予算総額を168億9千649万7千円とするものです。主な内容は次のとおりです。

○市民バス運行管理事業

1千331万7千円

○放課後児童健全育成事業 655万3千円

○放射能汚染対策事業 713万円

○白石スキー場費 445万4千円

○道路維持補修費 5千380万7千円

◎平成29年度白石市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)

これまでの歳入歳出予算をそれぞれ1千948万3千円追加し、予算総額を45億2千33万3千円とするものです。補正の主なものは、介護納付金等を減額する一方、前年度事業費確定による国、県支出金返還金、後期高齢者支援金、予備費を増額するものです。

◎平成29年度白石市介護保険特別会計補正予算(第1号)

これまでの歳入歳出予算をそれぞれ2億4千631万8千円

追加し、予算総額を41億2千268万1千円とするものです。補正の主なものは、前年度事業費確定による国、県支出金返還金及び一般会計繰出金、介護保険事業財政調整基金積立金、地域支援事業費等を増額するものです。

◎平成29年度白石市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)

これまでの歳入歳出予算をそれぞれ1千167万7千円追加し、予算総額を4億4千133万7千円とするものです。補正の主なものは、予備費を増額するものです。

◎平成29年度白石市水道事業会計補正予算(第1号)

補正の主なものは、収益的支出において、有収率向上基本計画策定業務に753万9千円を増額し、支出総額を9億3千641万6千円とするものです。また、資本的支出において、湯元水源井戸の取得費用として、固定資産購入費146万4千円

9月定例会で審議した議案

議案番号	件名	審議結果
第59号	市長提案	
第60号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	同意
第61号	物品購入契約の締結について	原案可決
第62号	平成28年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
第63号	平成28年度白石市水道事業会計利益の処分及び決算の認定並びに白石市下水道事業会計決算の認定について	原案可決及び認定
第64号	白石市農村地域工業導入促進審議会条例の一部を改正する条例	原案可決
第65号	白石市スキー場条例の一部を改正する条例	原案可決
第66号	白石市道路路線の認定について	原案可決
第67号	指定管理者の指定について(みやぎ蔵王白石スキー場)	原案可決
第68号	指定管理者の指定について(白石市南蔵王休憩所)	原案可決
第69号	平成29年度白石市一般会計補正予算(第4号)	原案可決
第70号	平成29年度白石市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	原案可決
第71号	平成29年度白石市介護保険特別会計補正予算(第1号)	原案可決
第72号	平成29年度白石市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	原案可決
第73号	平成29年度白石市水道事業会計補正予算(第1号)	原案可決
第74号	平成29年度白石市下水道事業会計補正予算(第1号)	原案可決
第75号	あっせんんの申立ての変更について	原案可決

※意見(賛否)が分かれた議案はありませんでした。

を増額し、支出総額を3億71万1千円とするものです。

◎平成29年度白石市下水道事業会計補正予算(第1号)

補正の主なものは、収益的支出において、下水道使用料徴収業務委託料に2千207万3千円を増額し、支出総額を10億3千585万2千円とするものです。

◎あつせんの申立ての変更について(定例会最終日提案)

第45回定例会で議決を得た東京電力福島第一原子力発電所事故に係る原子力損害賠償紛争解決センターへのあつせんの申立てについて、損害賠償請求額に有害鳥獣対策経費等102万850円を増額したことから、申立ての金額を変更するものです。

○申立て予定額
1億7千774万4千850円
及び遅延損害金



決算審査特別委員会の現地調査(みやぎ蔵王白石スキー場)

本会議質疑より

◎白石市スキー場条例の一部を改正する条例

〔質疑〕半日券の利用時間を30分延長することで、具体的に利用者にとどのような利便性が向上するのか伺う。

〔答弁〕現在、半日券の区分は、4時間30分としている。スキースクールは午前10時から12時までの2時間、それ

から午後1時から3時までの2時間で行なっており、午前10時から開始だと午後2時30分で半日券の利用時間が終わってしまうことから、利用効果を高めるため30分延長するものである。

◎物品購入契約の締結について

〔質疑〕圧雪車の購入契約について、一社特命による随意契約とした理由を伺う。

〔答弁〕国内では3社から圧雪車が販売されているが、購入にあたり、故障が少なくアフターサービス体制が充実していること、荷台の大きい車両であること、燃費やメンテナンスなどランニングコストがかからない車両であること、排気ガスによる環境への影響が少ない車両であること、これら4つの条件を満たすものを選定した。

選定した車両を取り扱う業者は限られており、東北地区では日本ケーブル株式会社東北支店のみであることから、一社特命による随意契約としたものである。

◎平成28年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について

〔質疑〕平成28年度一般会計収支決算状況について、実質単年度収支が5億1千891万1千143円の赤字となっている。この要因について伺う。

〔答弁〕平成28年度については、単年度収支が赤字で市債の繰上償還がなく、また、財政調整基金の取り崩しが9億4千258万1千円で、積立金の4億6千869万3千163円より大きかったことから赤字となったものである。

〔質疑〕赤字となった要因について、具体的にどのように分析しているのか伺う。

〔答弁〕平成28年度決算については、地方交付税が前年度よりも減っており、ここ数年は地方交付税が減額の傾向にあるということがその一つの要因であると考えている。

また、地方創生事業などの支出もあげられる。地方創生事業については、全額が国の負担というわけではないため、本市にも負担がいくと伺う。

これらのことが主な要因となり、今回の決算結果になったと分析している。

◎平成28年度白石市水道事業会計利益の処分及び決算の認定並びに白石市下水道事業会計決算の認定について

〔質疑〕本市の水道事業における現状、今後の取り組みについて伺う。

〔答弁〕本市の水道事業は、水需要の減少による収益減少が続く一方、施設の更新需要が増加し、財政的に厳しい状況となることが予測される。

また、上下水道事業ともに退職等により経験豊富な技術職員が急速に減少しており、人材の育成と確保、次の世代への技術の継承が大きな課題となっている。

今後市民のライフラインである水道を持続していくためには、経営の効率化とコストの縮減に努めるとともに、上下水道の公共性を維持しつつ、包括的な民間委託や広域化、広域連携を積極的に進めなければならないと考えている。

決算審査特別委員会

第62号議案・平成28年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について及び第63号議案・平成28年度白石市水道事業会計利益の処分及び決算の認定並びに白石市下水道事業会計決算の認定についての2議案は、定例会2日目(9月8日)の本会議において質疑が行われた後、議長及び監査委員(小川正人)を除く全議員で構成する決算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会(委員長・伊藤勝美、副委員長・平間知一)は、9月12日に現地を調査し、9月12日及び13日の2日間にわたって審査を行い、表決の結果、全会一致で原案のとおり可決及び認定しました。

審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

一般会計

総務費

〔質疑〕わいわいトーク(自治会長と市長の地区懇談会)について、新しい市長を囲んでどのような意見が出されたのか、主なものを伺う。

〔答弁〕平成29年1月に全力所で開催し、さまざまな意

見が出たが、一番多かった意見は「イノシシの被害について」、6地区から出された。その他には、「地域の活性化について」、「人口減少対策について」、「刈田総合病院について」、「市民バスについて」、「学校統合について」、「企業誘致について」などが出されている。

〔質疑〕オーストラリア友好親善訪問派遣事業について、姉妹都市のハーストビル市が

合併し、ジョージズリバー市となったが、今年度同様、今後もカウラ市へ中学生の派遣を行うのか、ジョージズリバー市との姉妹都市締結の継続を検討し派遣を行なっていくのかについて伺う。

〔答弁〕中学生派遣事業については、姉妹都市のハーストビル市が合併したことから、前年度と今年度はオーストラリアのカウラ市に中学生を派遣しており、今までどおりホームステイ等を通して実績を上げている。

できれば、この事業は継続したいと考えており、ジョージズリバー市の市長が9月に選出されると聞いていることから、今後、動向を探りながら姉妹都市の継続ができるよう検討していきたい。

〔質疑〕移住フェアの参加について、昨年度は各地のイベントに5回参加し、52組、65人の方が訪れたとのことだが、このフェアがきっかけで白石市に移住された方がいたかどうかについて伺う。

〔答弁〕フェアの参加により白石市に移住された方は、今のところ確認できていない状況である。

フェアの参加については、まずは白石市という名前を知っていただく、そこでPRを行い白石市を理解していただき、移住を考えていただくという趣旨のもとで取り組んでいる。

民生費

〔質疑〕介護ロボット導入促進事業について、導入した事業者からどういった意見、感想が出ているのか伺う。

〔答弁〕介護ロボット導入については、昨年度は3法人、4事業所に国の補助を活用し助成を行なっている。

導入に対する効果として事業者からは、「歩行アシストカート」については、移動時に身体介助を要していた者が、見守りと声がけのみとなり、負担軽減が図られ、「見守りベッド」については、離床センサーにより、本人が起き上がりたいときに迅速に対応で

きるようになり、頻回な見守りを行わなくても済み、負担軽減が図られているといった意見をいただいている。

また、「マッスルスーツ」については、腰への負担が軽減される一方、装着に時間を要するため、さらに軽量化、小型化の改善を希望するといった意見をいただいている。

衛生費

〔質疑〕任意予防接種費用助成について、中学3年生のインフルエンザ任意接種の人数が264名とあるが、これは全体の何%か。また、接種した効果について伺う。

〔答弁〕任意接種の割合については、対象者が302名、うち接種者が264名であることから72.9%となる。効果については、特に把握はしていない。

〔質疑〕予防接種した中で、副作用の症状などは見られたか伺う。

〔答弁〕予防接種による副作用や事故等の報告はない。

農林水産業費

〔質疑〕有害鳥獣対策事業について、農作物の被害を軽減するため、白石市鳥獣被害対策実施隊が結成されている。

イノシシの捕獲数は年々成果が上がってきているが、隊員の任務中の危険、苦労等の報告があれば伺いたい。

〔答弁〕実施隊員は70人余りおり、ここ最近では白石市ではないが、蔵王町で獲物を追いかけて振り向いたところ、同行していた隊員に誤射してしまつたという人身事故が発生した。

また、「箱わな」や「くくりわな」については、ほぼ毎日点検に行かなくてはいけないという苦勞や、「くくりわな」にかかった獲物のワイヤーが切れたり、獲物の血抜き作業中に息を吹き返す等で隊員に向かつてくる危険性もある。そのような中、活動していただいている。

商工費

〔質疑〕消費者行政事業について、様々な消費生活の相談が82件あるが、その内容を伺う。

〔答弁〕平成27年度と比べ10件減少したが、相談の傾向として、詐欺商法などの悪徳商法が多く出てきている。

具体的には、健康食品の契約トラブルや、賃貸住宅の敷金返還トラブルなど、その他には「T」を巧みに悪用した事例などが増えている。

〔質疑〕悪徳商法の被害をなくすため、市民に対しどのような呼びかけや注意喚起をしていくのか伺う。

〔答弁〕被害を未然に防ぐということが何より重要であると考えていることから、正確な情報を発信するなど、啓発に努めている。

また、消費生活相談員が高齢者等の集まりの際、講演を行うなど周知を図っており、今後も継続的に進めていきたいと考えている。

土木費

〔質疑〕公共土木施設等災害復旧費において、繰越明許費1億2千689万3千644円の内容について伺う。

〔答弁〕内容については、昨年8月16日から17日にかけての台風7号及び8月22日から23日にかけての台風9号による被災を受けた公共土木施設の災害復旧工事費である。

垂清川護岸の工事が2カ所、市道不忘みのわ線、市道金成線、市道三住線の計5カ所が災害復旧工事となっている。

そのうち、市道不忘みのわ線については、年度内に工事が終了しているが、他の4カ所については、用地交渉に不測の日数を要した、あるいは受注生産のため資材の搬入に不測の日数を要したという理由により、今年度に繰り越したくなったものである。

〔質疑〕子育て応援住宅事業について、全部で戸数が80戸あるが、今年3月末現在で空家が46戸と半分以上が空いている状況である。今後、入居見込みがあるのか伺う。

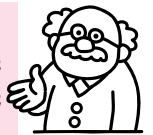
〔答弁〕子育て応援住宅の入居者は増加してきており、昨

年8月末現在では21戸だったが、今年3月末現在で34戸、8月末現在で39戸、9月中旬に1戸入居予定のため、入居率は50%となる。

今までの傾向を見ると、毎年3月と9月に動きがあることから、住宅を管理している委託業者とも連携を図り、入居率向上に向けて取り組んでいきたいと考えている。

繰越明許費とは？

繰越明許費とは、経費の性質や予算成立後のなんらかの理由で、その年度内に支出が終わらない見込みのものについて、議会の議決を経て翌年度に限り繰り越して使用できるようにする経費をいいます。



平成28年度 一般会計・特別会計決算の状況

〔単位：円〕

会計名	歳入決算額	歳出決算額	差引額
一般会計	17,191,303,664	16,747,680,366	443,623,298
特別会計	8,769,417,517	8,337,010,010	432,407,507
国民健康保険	4,680,559,459	4,496,662,494	183,896,965
介護保険	3,701,079,658	3,464,248,087	236,831,571
後期高齢者医療	387,778,400	376,099,429	11,678,971
合計	25,960,721,181	25,084,690,376	876,030,805

平成28年度 企業会計決算の収支状況

(消費税相当額を含む)〔単位：円〕

会計名	収益的収入	収益的支出
水道事業	1,068,104,771	876,515,967
下水道事業	1,103,786,085	1,403,130,760

会計名	資本的収入	資本的支出
水道事業	224,174,342	349,877,313
下水道事業	1,566,986,957	1,973,450,952

教育費

〔質疑〕A・L・T（外国語指導助手）活用事業について、本市では6名のA・L・Tを配置しているが、どのような成果が出ているのか伺う。

〔答弁〕A・L・Tを3名から6名に増やしたことにより、今まで以上に各学校へ関わる回数が多くなっている。

小学校、幼稚園等についても同様であるが、特に中学校においては、ほとんど週の半分以上、学校において指導に当たっており、その効果は非常に大きいと考えている。

同時に、A・L・Tと教員が打ち合わせる時間が以前よりも持てるようになったということが、効果を上げている要因と考えている。

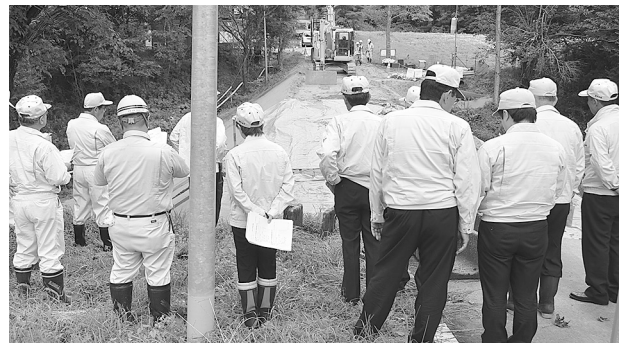
多くの中学校では、3年生の英語の授業は、できるだけ全て英語（オールイングリッシュ）による授業という形で進めているが、これもA・L・Tの役割の大きさであると感じている。

〔質疑〕小学校及び中学校における学校管理費の中の需用費において、不用額が小・中学校共に300万円を超えているが、その理由を伺う。

〔答弁〕不用額が生じた理由として、まず小学校費の不用額332万672円のうち、燃料費及び光熱水費が325万931円で98%を占めている。これは小学校10校分の灯油などの燃料費、それから電気・水道などの光熱水費となっており、これらについては、気温と単価の変動などにより、なかなか見込みが難しい状況となっている。

さらに、最終の請求が4月10日ごろに届くという事情もあり、支払いの安全性を考慮して減額補正を行わなかった結果、不用額が生じたものである。

また、中学校費についても、不用額389万1千623円のうち、374万3千744円と、こちらも96%が燃料費及び電気水道などの光熱水費で占めており、理由としては小学校と同様となっている。



決算審査特別委員会の現地調査（左：市道鎌先1号線 右：市道金成線）

特別会計

〔質疑〕国民健康保険の短期被保険者証・資格証交付状況について、これらの交付者に対しどのような対応をしているのか伺う。

〔答弁〕交付者には保険証更新時期の前後に案内を出しており、また、入院・退院、その他の給付等の手続きに窓口を訪れた際に、収納担当者と相談しながら対応を行なっている。

〔質疑〕介護保険事業の権利擁護相談事業実施状況について、総数が519件、そのうち虐待関係が143件となっている。その他権利擁護についても385件あるが、こういった擁護関係の相談内容があるのか、また、この事業を実施していくにあたっての取り組みについて伺う。

〔答弁〕権利擁護に関する相談については、高齢による認知機能の衰え等により、本人の財産等をなかなか管理でき

なくなっている状況の相談が増えている。

その場合は、社会福祉士等が相談に乗り、公的なサービス機関に結びつける等の支援を行なっている。その他には、講演会を開催するなどして、市民にさまざまな支援サービスがあるということについて、啓蒙普及を図っているところである。

虐待関係134件については、相談により虐待と判断した案件がこのうち9件あった。

ほかの案件については、認知症等で介護が必要となった状況に対応できない家族によるネグレクト（無視や放置すること）に近い状況や、家族が大きな声を出しているという状況等があったが、これらについては、介護保険サービスに結びつける等の支援で落ち着く内容であった。

虐待と判断した9件については、実際にお子さんや配偶者等による虐待であり、そのうち3件は、親族との分離等の措置を行なっている。

予算審査特別委員会

第69号議案・平成29年度白石市一般会計補正予算(第4号)から第74号議案・平成29年度白石市下水道事業会計補正予算(第1号)の計6議案について、定例会3日目(9月11日)の本会議において質疑が行われた後、議長を除く全議員で構成する予算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会(委員長・菊地忠久、副委員長・佐藤秀行)は、9月14日に審査を行い、すべての議案について、表決の結果、全会一致で原案のとおり可決しました。

審査の中で議論された主な点は次のとおりです。

◎平成29年度白石市一般会計補正予算(第4号)

商工費

〔質疑〕空き店舗対策事業補助金として100万円が計上されているが、新しく申請されている方の業種や雇用の見込みについて伺う。

〔答弁〕現在、米沢で携帯電話等の修理サービス会社に勤務されている方が相談に来て

土木費

いる。白石市を中心として仙南、それから福島県北を補うような形でこのことだが、雇用関係についてはまだ確認していない。

ぜひ白石市にきたいという相談をいただいていることから、予算を計上したものである。

〔質疑〕花木栽培実証試験業務委託料について、100万円の減額理由を伺う。

〔答弁〕この業務委託は、市内公園を利用し、花と緑に浸り、楽しみ、そして産業に結びつける仕組みを構築することを目的に、新たな加工等による収益と観光をあわせ持つ花木の栽培試験を行うということで、昨年度からスパッシュランドパークにラベンダーを栽培している。

昨年度植えたラベンダーの成育が非常に悪かったことから、今年度も新たに植える予定だったが、昨年度植えたラベンダーの成育管理をしたほうがよいとなり、新しく植える分を減らしたため、予算を減額したものである。

教育費

〔質疑〕オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業について、女子新体操ベラルーシ代表チーム選手、さらにはブラインドサッカー選手との交流事業を行うとあり、大平小学校、東中学校がその対象校で、事業内容

については、今後具体化していくとある。

このことについて、この事業がそもそも単年度の事業なのか、それとも2020年オリンピック開催に向けて、今後3年間継続してほかの小中学校も同様に交流を図ろうと考えているのか伺う。

〔答弁〕この事業は単年度事業であるが、希望すれば上限3年まで継続することができる。

継続については、今年度の大平小学校、東中学校の取り組み状況や成果等を見ながら、今後、検討していきたい。

◎平成29年度白石市水道事業会計補正予算(第1号)

〔質疑〕有収率向上基本計画策定業務について、3カ年計画で行なっていくとのことだが、平成28年度の有収率が70.85%、平成26年度から比べると4.1%も減っている。

基本計画策定にあたり、どのように実施していくのか伺う。

〔答弁〕有収率の低下については非常に苦慮しており、旧来の漏水調査だけでは、改善できない状況である。

現在、漏水調査は、おおむね5カ年から6カ年程度で白石市内を一巡するようペースで行なっているが、その中では顕著な漏水は発見されていない。しかし、数字は確実に低下していることから、今回の基本計画を策定するものである。

今年度は、自己水源系統と広域水道から受水している系統の2系統について、水系別の配水量を分析する。また、要所において実際流れている流量を一定期間監視し、変化を見ていく。

また、施設を総点検し、その可能性のある施設あるいは管路、区間を抽出して詳細な調査を行い、これらの成果を受け、来年度、再来年度において、さらに追加調査を行う予定である。

このことを踏まえ、3年後の有収率の目標を80%とし、まずはこれを達成していきたいと考えている。

市政に対する一般質問

〳〳〳10名の議員が質問〳〳〳

9月定例会の一般質問は、9月20日・21日の2日間に行われられました。質問の要旨は次のとおりです。

- 伊藤 勝美** 所有者不明化の土地・建物問題について 他
- 沼倉 啓介** 本市の上水道事業について
- 菊地 忠久** 仙南・仙塩広域水道事業への料金設定について 他
- 四竈 英夫** 市民の危機管理体制について
- 佐藤 秀行** 益岡公園野球場について 他
- 佐久間儀郎** 空き家等対策について 他
- 佐藤 龍彦** デマンド型交通システムについて 他
- 大野 栄光** 高速道路の防音壁について 他
- 管野 恭子** 音のバリアフリー化推進に新装置導入を！ 他
- 松野 久郎** 「小さな拠点」について 他

所有者不明化の土地・建物問題について



伊藤 勝美

農地で515筆、あとはその他となっている。

〔質問〕土地・建物の所有者が死亡し、相続人が不明のものは市内にどのくらいあるのか。また、その原因をどう考えているのか。

〔答弁〕〔税務課長〕平成29年1月1日現在で、土地152筆、建物39棟、課税件数は19件ある。原因は、相続放棄や相続人不存在があるが、相続が発生しても資産としての関心が低く、先祖伝来の土地への関心が薄れてきているのではと考えている。

〔質問〕税徴収のための相続人追跡調査はどの程度まで行うのか。

〔答弁〕〔税務課長〕他市町村、他県でも書類が取れるところまで追いかけて調査している。

〔質問〕相続人が相続した土地・建物の採納、寄付を申し出た場合、本市はどのような対応をしているのか。

〔答弁〕〔財政課長〕物件にもよるが、市に負担がかかるものについては、受け入れは難しいと判断している。

〔質問〕所有者不明の土地が増加すると予想されるが、この問題に対する本市の対応について見解を伺う。

〔答弁〕〔税務課長〕総務省は、未利用農地や未利用商業施設の利用促進を図る目的から、そのような土地・家屋に対しての重課税の検討を行なっている。今後は、国の動向を注視して対応していきたい。

【その他の質問】

◎市民の命を守るための危機管理について

◎ふるさと納税制度について

◎小・中学校教員の勤務について

本市の上水道事業について

沼倉 啓介



〔質問〕本市に限らず水道事業は、給水人口や給水量が減少し続ける社会の到来により、震災を踏まえた水道の危機管理の抜本的見直しが必要とされる。

平成28年度の事業実績を見ても、直接水道事業の経営に影響するとされる有収率の減少傾向になかなか歯止めがかからず、給水収益も減少している。

提出された決算状況をつぶさに検証しても、持続的安定性の内容を感じるものであるとは信じがたい。

水というのは、本市においては戦略として使える一つの大きな武

器になるのではと思う

が、上水道の需要の増加に結びつくと思われる大型需要者への料金格差の設定などを活用し、水需用の増加を促していく考えはないか

同う。
〔答弁〕【市長】工業用に限らず、大口使用者と個別に給水契約を行い、一定以上の水量については、料金単価を安く設定する事業体もある。

このことにより、使用水量の増加、地下水への切りかえの抑制、地下水から上水道への再転換を促し、ひいては収益の減少傾向と供給能力の過剰を改善するため、近年、全国で

導入が相次いでおり、近隣では福島市などで導入されている。

また、企業誘致の際にも利点となると考えることから、本市でも今後、研究していきたいと考えている。

〔質問〕基本的に、本市から負担金、補助金あるいは交付金を出している団体については、地下水の使用ではなく、本市の上水道を使っていただくという一つの明確な基準を決めることが、本市にとって幸せが訪れるのではないかと思うが、見解を伺う。

〔答弁〕【市長】利用者によるコスト比較などの判断があるため、給水区域内であっても、上水道の利用を強いることはできない。経営上の判断として地下水を活用することは、やむを得ない部分もあると考えている。

仙南・仙塩広域水道事業への料金設定について

菊地 忠久



〔質問〕本市が仙南・仙塩広域水道へ支払う受水料金は、計画1日最大給水量（最終水量）に基づく基本料金と実際の使用水量に基づく使用料金から算出されている。この最終水量が本市は2万4千70立方メートルだが、実際の受水量は平成27年度で約6千388立方メートルであった。

最終水量と実際の受水量が大きく乖離している現状の所見を伺う。

〔答弁〕【市長】昭和50年頃より、将来人口予測や開発計画による受水量の配分が検討され、人口10万人構想もあつた本市は、将来の水需要を大きく見積もつた。

それが最終水量として現在も基本料金の算定基礎となっており、実際の受水量と最終水量との乖離は徐々に拡大している状況である。

〔質問〕最終水量を見直さなければ安定した水道事業経営の妨げになると考えるが、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】最終水量と基本料金については、水道事業のみならず、市全体にとって非常に大きな問題だと認識している。

基本料金は最終水量により決定されるため、人口減少等で水道料金収入が減少しても基本料金は変わらないことから、水道事業経営はさらに厳しくなると予想される。

〔質問〕最終水量の見直しはできないのか。

〔答弁〕【市長】広域水道全体の最終水量は決まっており、本市が下げるとその分を他の市町に引き受けてもらわなければならないが、これまで最終水量を見直すことは大変に難しい問題であった。

しかし、最終水量は本市の水道事業の命運がかかると問題であり、是が非でも見直さなければならぬことから、様々な機会を利用し県に要望を行なっている。

県では、次の広域水道の料金改定を平成32年4月からと予定しており、今後、料金について検討が本格化すると考えられるため、さらに強く要望していく。

【その他の質問】

◎学校健診等のデータベース化とその活用について

◎小中学校への地中熱利用換気システム導入について

◎マンホールカードについて

市民の危機管理体制について

四 竈 英 夫



〔質問〕8月29日早朝、北朝鮮は中距離弾道ミサイルを発射した。また、9月15日にも再び発射し、前回よりも長く飛んだと伝えられた。世界的に非難と抗議の声が上がっているが、今後、発射が中止されるかはわからない。

ミサイル発射後、全国瞬時警報システム（Jアラート）が12道県で避難を呼びかけ、この警報を受け、本市ではしろいし安心メールを通じて市民に注意を呼びかけた。

このことについて、市民に対し、緊急時の対応についての心構えと注意の喚起が必要と思うが、見解を伺う。

〔答弁〕【市長】市民に対する注意喚起については、屋外にいる場合はできるだけ頑丈な建物、地下があれば地下に避難し、適当な建物がない場合には、物陰に身を隠すか地面に伏せて耳を塞ぐのも有効であると報道がされている。

また、屋内の場合は、窓のない部屋に移動する、窓がある場合は、カーテンを引くことなどの行動をとっていただきたい。

これらについては、市のホームページ等にも掲載しているので、ぜひご覧いただきたいと考えている。

〔質問〕しろいし安心メールの登録者数が4千43名とのことだが、もっと増やす対策が必要ではないか。

〔答弁〕【市長】しろい

し安心メールは、ミサイル発射時に限らず、災害時の避難情報や気象情報、不審者情報、火災情報等多くの情報を発信している。

毎月の広報誌とホームページに登録するためのQRコードを掲載し、周知を図っている。

〔質問〕緊急時の情報をいち早く伝えるため、防災行政無線の導入を検討されてはいかがか。

〔答弁〕【市長】本市は広範な市域を有しており、費用の面からも導入は非常に難しい。

〔質問〕市街地（旧町内）だけでも設置する考えはないか。

〔答弁〕【市長】旧町内だけの設置ということでは考えていない。

市民はどこに居住していても等しく行政サービスを受取る権利がある。一方の市民にだけ情報が届き、片方には届かなくてもいいと言っ考えは全くない。

益岡公園野球場について

佐 藤 秀 行



〔質問〕工期2年目も半年を過ぎた現在の進捗状況、また、この事業にかける思いを伺う。

〔答弁〕【市長】改修工事は、国からの補助を受け実施していることから、国の予算配分次第で工事の進捗が大きく左右され、平成29年度においては、要望額には程遠い予算配分であったため、大幅に遅れている。

改修工事が完了すれば、競技者が安全、安心にプレーできるようなになり、スポーツ環境が充実し、各種大会等の開催により交流人口の拡大につながる野球場になるものと考えている。

〔質問〕早期改修工事の終了に向けて、今後

どのように尽力されるのか、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】益岡公園の改修工事は、財政的に市の単独費だけでは難しく、国の補助なしでは実施することが困難な事業である。

今後、国、県に働きかけをし、予算獲得のため奔走したいと考えている。

◎白石市観光施設間シャトルバス試験運行について

〔質問〕白石市観光施設間シャトルバス試験運行にかける市長の思いを伺う。

〔答弁〕【市長】本市の魅力ある観光施設を周遊して満喫していただくことで、施設利用促進の更なる効果に大きな期待をしている。

また、二次交通としても、今後、運行可能かどうかを色々な状況

を勘案しながら、バス事業者とともに見定めたいと考えている。

◎小・中学校の各種大会派遣に要する助成について

〔質問〕中学生野球の選抜チームが県大会、東北大会及び水戸市で行われた大会等に出場したことで、何かしらの助成金の交付は行われたのか伺う。

〔答弁〕【教育長】交付は行っていない。

学校教育団体等が主催する営利を目的としない大会等に出場した場合に交付をしている。

〔質問〕今後、助成金の交付について、どのように対応していくのか、所見を伺う。

〔答弁〕【教育長】助成金交付要綱の表現等の改正を考えているが、助成対象の拡大は難しいと考える。

今後とも適切な運用を図っていききたい。

空き家等対策について

佐久間 儀郎



〔質問〕「白石市空家等

対策計画」の所有者等による空き家の適正管理の促進に関する事項として、所有者等と事業者の橋渡しで「遠方に居住する方々など、地元の建設会社、不動産業者等の情報が不足している所有者のために、事業者を紹介する仕組みを検討する」とは、大変結構なことで、空き家バンクなどへの登録に結びつくと考える。

空き家所有者が遠方に居住している、空き家の現状を知らない、大まかに知っていても第三者の迷惑になっているかどうかと気づいていない、どのように管理するのかわからないなど様々な態様があると思われる。

そこで、事業者の一つに、公益社団法人白石市シルバー人材センターを加え、空き家等の管理業務を組み込んで高齢者の就業機会の確保、良好な生活環境の保全、安心・安全なまちづくりの推進に寄与していただくことを提案したい。

センターの考えや受託の許容性はあると思うが、そのあたりの所見を伺う。

〔答弁〕【市長】白石市空家等対策協議会に提案があったことを申し添えて、今後、協議会の中で議論をしていたきたいと考えている。

〔質問〕特定空き家等

に対する措置等に関する事項として、外観調査で道路の通行者や隣接地利用者等の第三者に危害を与えている可能性のある建物が、377棟見つかったとされ、「特定空き家等」に該当する可能性が高いと推測される。

行政による立入調査ができ、所有者に対する「指導、勧告、命令、代執行」の措置ができるのが空家等対策特措法の大きなポイントであることから、的確に措置されることを期待するが、当局の取り組み、姿勢を伺う。

〔答弁〕【市長】税法上の住宅用地の軽減措置の解除及び所有者への指導、勧告、命令に重点を置き、進めるべきと考えている。

〔その他の質問〕

◎認知症行方不明者の救済について

◎子育て支援『日本版ネウボラ』の導入について

デマンド型交通システムについて

佐藤 龍彦



〔質問〕本市の公共交通の課題について、市長の見解を伺う。

〔答弁〕【市長】本年6月に地域公共交通のマスタープランとなる白石市地域公共交通網形成計画を策定したが、関係機関で構成する白石市地域公共交通活性化協議会において、計画の策定過程での調査を通して、公共交通の現状や課題の整理を行った。

現状として、人口減少、少子高齢化の進行により、市民バス利用者が減少傾向となり、地域公共交通ネットワークの縮小やサービス水準の低下を招きかねない状況にあるもの

と認識している。

〔質問〕デマンド型交通システムについて、市長の見解を伺う。

〔答弁〕【市長】一般的にデマンド型交通システムについては、定時定路線のバス運行に対して、電話予約など利用者ニーズに応じて柔軟な運行を行う公共交通の一つの形態であると認識している。

〔質問〕デマンド型交通システムの導入を検討してはどうか伺う。

〔答弁〕【市長】白石市地域公共交通活性化協議会において検討したが、市民バス運行及び乗合タクシー運行経費に加え、デマンド型交通システムを運行するためには、財政負担、タクシー業界等の民業圧迫、タクシー・バス業界が抱える運転手不

足や高齢化などの問題があることから、デマンド型交通システムを導入することは、現在のところ考えていない。

〔質問〕今後の本市の公共交通について、市長の見解を伺う。

〔答弁〕【市長】市民生活に公共交通が果たすべき役割は、非常に重要であると認識している。

今後は、明らかとなつた本市の公共交通の課題に対応するため、策定した白石市地域公共交通網形成計画に基づき、関係機関と協力しながら当該計画の着実な推進等を図り、将来にわたって市民が安心して暮らし続けられる公共交通を確保していきたいと考えている。

〔その他の質問〕

◎高齢者、障害者の投票環境の改善について

◎すこやかファイル配付者に対する支援策について

高速道路の防音壁について

大野 栄光



〔質問〕高速道路は必要不可欠な交通手段であり、地域の発展の象徴とも言えるが、沿線に住んでいる住民には、時には車の音が騒音となり、生活権を侵されることもある。

お盆や正月の帰省時における交通量は止むことのない騒音被害となつて耐え難く、せめて防音壁があつたらと願いつつ、長年辛抱している住民もいる。これらの騒音に対する解決策を伺う。

〔答弁〕【市長】騒音については、騒音規制法に基づき必要な測定などを実施しており、法的な対処基準として要請限度が定められてい

るが、超過したケースは認められなかった。今後、苦情等には速やかに現場確認し、適切に対応したい。

〔質問〕測定した結果、防音壁不要の判断というが、雨の日のタイヤ音、帰省時の混雑音など、住民によって騒音の捉え方は様々である。規制値以下であるからという論法は承服しかねるところがあるが、市長の見解を伺う。

〔答弁〕【市長】行政として法令遵守により、騒音規制法に基づく測定をしっかりと行なっていくが、東北道路騒音対策会議などの機会を捉え、防音壁の設置や延長の要望があることを伝えていきたい。

◎災害協定締結について

〔質問〕近年の異常気象は、計り知れないほどの被害をもたらす。今年も7月、8月と全国各地において、台風や豪雨は多くの被害をもたらし、住民に降りかかった。

本市においても、昨年は鉄砲水による流木被害が発生したが、山麓面積の広い本市は、いつも自然災害が起こり得るため、災害協定も視野に入れるべきと思うが、見解を伺う。

〔答弁〕【市長】本市で締結している防災協定は27の企業と行なっており、市町村間の相互応援協定は、6つの協定を行なっている。

さまざまな種類の防災協定があることが、白石市の防災力の強化につながるものと考えており、今後も前向きに検討していきたい。

【その他の質問】
◎地域組織の活動支援について

音のバリアフリー化推進に新装置導入を！

菅野 恭子



〔質問〕難聴の方、耳の遠くなりがちな高齢の方、そして、すべての方へ情報が伝わるよう、発信者側が工夫する「音のバリアフリー化」が注目を集めている。

日本航空では、誰もが利用しやすい空港環境をつくるために、平成28年8月、羽田空港の国内線ターミナルに、曲面サウンドという技術により、難聴の方でも聞き取りやすい音を遠くまで届けられる新装置「ミライスピーカー」を設置した。

当装置は、病院・金融機関・自治体・介護施設等でも活用が進んでいる。

また、会話に効果的な新装置に、卓上型対話支援機器「コミュニケーション」があり、当装置は、介護事業所・地域包括支援センターの業務等で多く利用されている。

専用マイクを着けた職員が卓上型の専用スピーカーから音声を流すことで聞き取りやすくなり、高齢・難聴の方との意思疎通が大きくなる。利用している職員は「機器のおかげで口数の少なかった方が会話するようになり、笑顔が増えた。」とその効果を語っている。

平成28年4月に施行された障害者差別解消法により「音のバリアフリー」への対応が官民ともに求められているが、本市においても、

その推進に向けて新装置導入を図り、適切な活用を実施すべきと考えるが、市長の見解を伺う。

〔答弁〕【市長】新装置の「ミライスピーカー」は、窓口での活用はもちろん、アナウンスが聞き取りにくい場面、例えば総合健診や災害時の避難所等での利用において、大変有益であると考えていることから、国や県の補助事業を探りながら、導入先進自治体、近隣市町の動向なども踏まえ、見極めていきたい。

【その他の質問】
◎水道事業について
◎季節性インフルエンザ予防ワクチン接種の助成拡大について

平成28年4月に施行された障害者差別解消法により「音のバリアフリー」への対応が官民ともに求められているが、本市においても、

「小さな拠点」について

松野 久郎



〔質問〕小さな拠点による地域づくりは、住民参画の地域づくりとして促進することが重要と考えるが、本市ではコンパクトシティ化を目指すのか伺う。

〔答弁〕〔市長〕本市は白石町外7カ村が合併して誕生し、集落が市中心部の外側に旧村単位で形成されている。

人口集積を図ることは、各地区の衰退と農地の荒廃に繋がることから、コンパクトシティ化は目指さない。

〔質問〕人口減少や高齢化が進む中、暮らしの安心と未来の希望のため、小さな拠点による地域づくりが必要と考えるが、所見を伺う。

〔答弁〕〔市長〕市内各地区の人口構成が今までの20年とこれからの20年では大きく違ってくる予測である。地区公民館を中核施設とした小さな拠点づくりが必要と考えている。

〔質問〕地域づくりに向けた行動は、住民自身が主体的に行動する必要があるが、今後、行政としての支援をどのように考えているのか伺う。

〔答弁〕〔市長〕住民が主体的に取り組むことができるよう、生涯学習課が相談窓口となつてサポートしていく。

◎**運転免許自主返納者への支援制度導入について**

〔質問〕運転免許自主返納者への支援制度導入について所見を伺う。

〔答弁〕〔市長〕市民バスは、路線によって70歳以上の方は半額の100円で利用でき、自主返納した場合は、タクシー料金が1割引きとなる制度もある。現状ではこれらを利用していただきたいと考えている。

◎**小中学校統廃合の準備状況について**

〔質問〕斎川小学校統合に係る準備委員会の決定事項について伺う。

〔答弁〕〔教育長〕教育課程、学校行事、校納金の取扱い等については学校間での調整は終えており、スクールバスの1回目の試乗会も実施している。

施設利用に関しては、当面、学校管理課が管理し、体育館、校庭の貸し出しも同様にと考えている。備品や児童会、PTA組織、子ども会育成会等は、ほぼ決定している。

【その他の質問】

◎**国民健康保険について**

◎**落ち葉等の野外焼却について**



市政に対する一般質問の様子

議会を傍聴してみませんか！

12月定例会は、12月8日（金）午前10:00開会予定です。

定例会は、年4回（2月・6月・9月・12月）開催されます。市の予算や決算、条例など、市民のみなさんに深く関わりのある議案が審議されます。

また、市議会では、インターネットによる中継を行なっています。議場で行われる本会議（議案審議・一般質問など）や予算審査をライブ中継や録画映像で視聴できます。

※録画映像は、ライブ中継配信の日から30日を経過すると自動で削除されます。

●7月臨時会の傍聴者数 4人 ●9月定例会の傍聴者数 50人

●7月・9月の議会ライブ中継の合計視聴者数（累計） 1,185人

議会の構成

9月定例会初日の本会議において、欠員となっていた白石市外二町組合議会議員の補欠選挙が行われました。

補欠選挙の結果、保科善一郎議員が組合議会委員に選出されました。
白石市外二町組合議会の議員は、次のとおりです。

白石市外二町組合議会議員 (刈田病院議会議員) (7名)

- 議員 保科善一郎
- 議員 伊藤勝美
- 議員 平間知一
- 議員 四籠英夫
- 議員 佐藤聡一
- 議員 佐藤秀行
- 議員 松野久郎

また、今回の定例会は、常任委員会等の委員の任期満了に伴い、新たに委員が選任され、その後、委員長・副委員長

長の互選が行われました。

併せて、欠員となっていたスマートインターチェンジ設置推進特別委員会の補欠委員の選任について、議長の指名により佐久間儀郎議員が選任されました。

各委員会等の名称、活動事項及び委員は次のとおりです。

議会運営委員会 (7名)

- 1 議会の運営に関すること
- 2 議会の会議規則、委員会条例等に関すること
- 3 議長の諮問に関すること

- 委員長 四籠英夫
- 副委員長 菅野恭子
- 委員 保科善一郎
- 委員 伊藤勝美
- 委員 伊藤勝美
- 委員 澁谷政義
- 委員 佐藤秀行
- 委員 松野久郎

総務産業建設常任委員会 (9名)

- 委員長 松野久郎
- 副委員長 佐藤秀行
- 委員 佐藤龍彦

1 総務部、市民経済部、建設産業部、会計課、上下水道事業所、選挙管理委員会、監査委員及び農業委員会の所管に属する事項の審査・調査に関すること

2 他の常任委員会の所管に属さない事項の審査・調査に関すること

- 委員長 山谷清
- 副委員長 大野栄光
- 委員 保科善一郎
- 委員 澁谷政義
- 委員 菅野恭子
- 委員 志村新一郎
- 委員 四籠英夫
- 委員 小川正人
- 委員 佐藤聡一

厚生文教常任委員会 (9名)

1 保健福祉部及び教育委員会の所管に属する事項の審査・調査に関すること

- 委員長 松野久郎
- 副委員長 佐藤秀行
- 委員 佐藤龍彦

- 委員 伊藤勝美
- 委員 沼倉啓介
- 委員 平間知一
- 委員 菊地忠久
- 委員 大町栄信
- 委員 佐久間儀郎

議会改革推進会議 (8名以内)

- 1 議会のあり方の調査研究に関すること
- 2 議会改革が必要な諸課題に関すること

- 委員長 小川正人
- 副委員長 澁谷政義
- 委員 伊藤勝美
- 委員 菅野恭子
- 委員 大野栄光
- 委員 四籠英夫
- 委員 佐藤聡一
- 委員 佐藤秀行

政策企画調整会議 (8名)

- 1 広聴活動による政策立案及び提言に関すること

2 市民との意見交換会及び一般会議に関すること

- 委員長 山谷清
- 副委員長 佐藤秀行
- 委員 保科善一郎
- 委員 伊藤勝美
- 委員 澁谷政義
- 委員 菅野恭子
- 委員 四籠英夫
- 委員 松野久郎

議会広報委員会 (9名)

- 1 議会報の編集及び発行に関すること
- 2 議会のホームページに関すること

- 委員長 菅野恭子
- 副委員長 佐藤聡一
- 委員 佐藤龍彦
- 委員 保科善一郎
- 委員 伊藤勝美
- 委員 四籠英夫
- 委員 菊地忠久
- 委員 佐藤秀行
- 委員 松野久郎

スマートインターチェンジ設置
推進特別委員会 (8名)

7月臨時議会

- 1 スマートインターチェンジ設置に関する事
- 2 その他スマートインターチェンジに関する事

- 委員長 四 電 英 夫
- 副委員長 管 野 恭 子
- 委員 保 科 善 一 郎
- 委員 澁 谷 政 義
- 委員 大 野 栄 光
- 委員 菊 地 忠 久
- 委員 松 野 久 郎
- 委員 佐 久 間 儀 郎

人 事

9月定例会において、次のとおり推薦することに同意しました。

〔人権擁護委員〕

(任期…平成30年1月1日～平成32年12月31日)

伊藤 一徳 氏

第426回市議会臨時会が、平成29年7月27日に開かれ、市長提出議案2件の審議を行い、全会一致で原案のとおり可決しました。各議案の内容は次のとおりです。

なお、意見(賛否)が分かれた議案はありませんでした。

また、今回の臨時会は、議長

◎白石市復興産業集積区域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例

原案可決

東日本大震災復興特別区域法に関連する省令の一部が改正され、適用期間が延長されたことから、本市においてもその適用期間を延長するため、条例の一部を改正するものです。

◎平成29年度白石市一般会計補正予算(第3号)

原案可決

◎議長選挙

投票総数	18票
有効投票	18票
無効投票	0票

有効投票中

志村 新一郎	議員	9票
山谷 清	議員	6票
小川 正人	議員	3票

編集後記

「議会だより」は、議会の定例・臨時会における議案審議、市政に関する一般質問等の模様を掲載しております。

議会は、市民の代表である議員が、市民生活の向上・市の発展に寄与する議案質疑、政策提案等に関し、その力量が問われる場でもあります。

議員は、積極的により多くの市民の声に耳を傾け、課題解決へ向け、適切な行動を起

「議会だより」を届けたい、市民の声を届けたい、課題解決へ向け、適切な行動を起

「議会だより」を届けたい、市民の声を届けたい、課題解決へ向け、適切な行動を起

「議会だより」を届けたい、市民の声を届けたい、課題解決へ向け、適切な行動を起



- 新たに私たちがわかりやすい「議会だより」をお届けします。
- 前列(右から)
 - 管野 恭子 委員長
 - 佐藤 聡一 副委員長
 - 二列目(右から)
 - 佐藤 龍彦 委員
 - 四電 英夫 委員
 - 松野 久郎 委員
 - 三列目(右から)
 - 保科 善一郎 委員
 - 佐藤 秀行 委員
 - 菊地 忠久 委員
 - 伊藤 勝美 委員